

グリーン・ユニバーシティをめざして

法政大学

環境報告
2014



グリーン・ユニバーシティの 実現にむけて

2015年4月
法政大学総長

田中優子



はじめに

「持続可能な地球社会への貢献」は、本学の重要な柱のひとつです。本学では持続可能社会への取り組みを、能動的、積極的にすすめています。とりわけ2014年度は、「スーパーグローバル大学創生支援」に採択された際に、「サステイナブル社会を構想する」ことを、グローバル化の柱としました。

1999年の「環境憲章」制定後、総合大学としてはわが国初となるISO14001を大学院棟にて取得しました。その後2001年には市ヶ谷キャンパス全体、そして2004年に多摩キャンパスへとサイトを拡大してきました。

その後、15年間にわたり、「環境憲章」の行動指針に乗っ取りさまざまな「持続可能な社会」にむけた活動を積み重ねてきています。

環境教育・研究活動

教育機関として1999年度には環境教育を基礎教育のなかに位置付ける人間環境学部、その後2003年度には大学院環境マネジメント研究科を設置、また2004年度には研究推進のための「エコ地域デザイン研究所」、2009年8月からは3年半の期間ですが「サステイナビリティ研究教育機構」を立ち上げてきました。

環境事業における地域貢献にも積極的に取り組んでおり、市ヶ谷キャンパスがある千代田区とは環境に関する事業協力協定を締結し、区民を含め環境問題について提言・実施する研究教育を行っています。

また、本学の教職員・学生はもとより市民の方も対象としたシンポジウム・講演会も毎年幅広く実施して広く社会に呼びかける活動をおこなっています。

環境負荷軽減活動

環境教育・研究活動に加え省エネ・省資源・廃棄物の抑制等が「持続可能な社会」の構築にとって一つの重要な要素に

なります。

2011年の東日本震災をきっかけにエネルギーの使用について大きな転換を考えさせられたことは、記憶に新しいことです。

本学でも2011年の夏季電力使用制限を踏まえ、「節電ガイドライン」を制定、その後も可能な限りの順守に努めています。

また、日々大量に発生する廃棄物についても徹底的に見直し排出の減量化に努めてきました。例えば、キャンパスに咲いている花々も当初は燃えるゴミとして処理されていた紙ゴミをミックスペーパーとして新たに分別、再利用資源ゴミとして扱い始めた結果その利益で実現出来ました。

自然環境保護活動

町田市、八王子市、相模原市の3市にまたがり824,000㎡もの広大な多摩キャンパスですが56%は森林として保存されています。以前は地元住民生活に密着した「里山」でしたが、1984年の多摩キャンパス開設以来四半世紀近く人手が入ることなく経過しようとしていました。

そこで多摩環境委員会が中心となり「里山」の実態調査をおこない、2012年3月には小冊子「法政大学多摩キャンパス自然と生物」として発行、保全の在り方を検討しています。

環境マネジメントシステムの継続的改善

「環境憲章」の制定から10年たった2008年には活動の担い手をより明確化し、PDCAサイクルの効果を上げることを主な狙いとして環境マネジメントシステムの運営体制を大幅に改正しました。

今後も現状にとらわれることなく、広く社会環境を吸収し継続的に発展させていきたいと思っております。

『法政大学環境報告2014』は、本学の環境教育・研究及び環境改善活動の一端をご紹介します。皆様からのご意見・ご感想をお寄せいただければ幸いです。

— 目 次 —

C O N T E N T S

TOP MESSAGE (法政大学総長 田中 優子)	2
大学概要及び編集方針	4
1 環境改善活動	
はじめに(環境保全本部担当常務理事, 環境保全統括本部長)	5
小委員会活動報告(資源・リサイクル小委員会, エネルギー・温暖化対策小委員会)	6
ISO14001(環境マネジメントシステム)とは	7
2013-15年度 環境目的・目標策定表	14
2 環境教育・研究活動	
2014年度の取り組み報告(市ヶ谷キャンパス, 多摩キャンパス)	16
2014年度の市ヶ谷・多摩地区の環境教育・研究活動について	18
3 資料編	
2014年度ISO運用管理アンケート結果および過去10年間の傾向について	20
教育研究組織の整備状況及び環境負荷データ	22
第三者意見/編集後記	23

※本報告書内の執筆者の所属・役職・肩書き等は、2014年3月末現在のものです。

グリーン・ユニバーシティとは

「持続可能な社会」を構築するため、法政大学が教育・研究における方向転換を目指す姿勢を表現したキーワードです。教学と法人の両面で同時に改革を進め、環境対策に取り組んでいます。

■教学面の改革(教育・研究)

学部において人間環境学部を、大学院において公共政策研究科公共政策学専攻(修士課程・博士後期課程)に「環境マネジメントコース」を設置しました。また、エコ地域デザイン研究所やサステナビリティ研究所も立ち上げ、教学改革を進めています。

さらに、2014年度は「サステナブル社会を構想する」ことをグローバル化の柱とした「スーパーグローバル大学創生支援」(文部科学省)に採択されました。

■法人面の改革(EMS活動)

ISO14001規格にもとづくEMS(環境マネジメントシステム)を導入し、キャンパスの環境改善を継続的に行っています。ISO活動を推進する専門部署として環境センターを設置し、キャンパス毎の環境関連委員会のもとで、教員が環境教育、職員が施設管理を担当しています。

教員で構成される市ヶ谷/多摩環境委員会は、環境教育の推進のため、セミナー・シンポジウムの開催、エコツアーや環境展の実施、屋上緑化、地域との交流、環境報告書の発行などを行っています。職員で構成される環境保全委員会は、施設管理面での環境改善のため、省エネ、省資源、ゼロエミッション、グリーン購入などを推進しています。

地球環境大賞

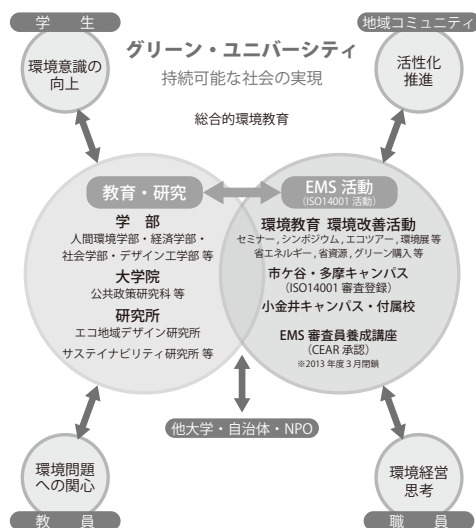
2004年4月、「第13回地球環境優秀環境大学賞」を受賞しました。

学校法人法政大学環境憲章

学校法人法政大学は、「開かれた法政21」*のビジョンのもとに、教育研究をはじめとするあらゆる活動を通じ、地球環境との調和・共存と人間的豊かさの達成を目指し、全学挙げてグリーン・ユニバーシティの実現に積極的に取り組む。

*「開かれた法政21」:大学の社会的責任として、学内に蓄積された知識やノウハウを広く社会に開放しようというもの。

グリーン・ユニバーシティ概念図



1 大学概要 (2014年度)

組織名：学校法人 法政大学

創立：1880年（東京法学社（講法局・代官局）設立）

構成	学生	専任教員	専任職員	付属校教員
人数	39,257名	754名	415名	212名

※注：学生数、専任教員、職員、付属校教員数は2014年5月1日現在

市ヶ谷キャンパス 〒102-8160 東京都千代田区富士見2-17-1	
学部	法学部、文学部、経営学部、国際文化学部、人間環境学部、キャリアデザイン学部、デザイン工学部、GIS（グローバル教養学部）
大学院	人文科学研究科、国際文化研究科、経済学研究科、法学研究科、政治学研究科、社会学研究科、経営学研究科、人間社会研究科、政策創造研究科、デザイン工学研究科、公共政策研究科、キャリアデザイン学研究科、政策科学研究科 [2012年度より募集停止]、環境マネジメント研究科 [2012年度より募集停止]、イノベーション・マネジメント研究科、法務研究科
通信教育部	法学部、文学部、経済学部
付属研究施設	法政大学ボアソナード記念現代法研究所、法政大学沖縄文化研究所、野上記念法政大学能楽研究所、法政大学イノベーション・マネジメント研究センター、法政大学エコ地域デザイン研究所、法政大学地域研究センター、国際日本学研究所
多摩キャンパス 〒194-0298 東京都町田市相原町4342	
学部	経済学部、社会学部、現代福祉学部、スポーツ健康学部
大学院	経済学研究科、社会学研究科、人間社会研究科
付属研究施設	法政大学大原社会問題研究所、法政大学日本統計研究所、スポーツ研究センター、法政大学比較経済研究所、サステイナビリティ研究所
小金井キャンパス 〒184-8584 東京都小金井市梶野町3-7-2	
学部	情報科学部、理工学部、生命科学部、工学部 [2007年度より募集停止]
大学院	情報科学研究科、理工学研究科、工学研究科 [2013年度より募集停止]
付属研究施設	法政大学イオンビーム工学研究所、法政大学情報メディア教育研究センター、マイクロ・ナノテクノロジー研究センター
付属校 所在地	
法政大学中学高等学校	〒181-0002 東京都三鷹市牟礼4-3-1
法政大学第二中・高等学校	〒211-0031 神奈川県川崎市中原区木月大町6-1
法政大学女子高等学校	〒230-0078 神奈川県横浜市鶴見区岸谷1-13-1

2 編集方針

本報告書は、本学教職員、学生に加えて、近隣住民の方々や卒業生をはじめとする一般に向けて、本学の環境に関する取り組みを紹介するために作成致しました。また、本報告書は、以下の法政大学環境センターホームページにも掲載しております。

- 環境報告書の対象期間 2014年4月～2015年3月
- 対象範囲 環境配慮への取り組み範囲は環境マネジメントシステムの構築が完了している市ヶ谷キャンパス及び多摩キャンパスを対象としています。
- 発行年月 2015年6月
- 問い合わせ先 法政大学環境センター 〒102-8160 東京都千代田区富士見2-17-1
TEL:03-3264-5681 FAX:03-3264-5545 E-mail:cei@hosei.ac.jp
URL <http://www.hosei.ac.jp/kankyokenshou/index.html>
※環境センターホームページのバナー → コミュニケーション・環境報告書

はじめに

法政大学EMS活動について

環境保全本部担当常務理事・地球環境委員会委員長

増田 正人

法政大学は、1999年に「ISO14001」を取得して以来、その規格に基づいた環境マネジメントシステムを導入して環境改善に努めてきました。

2011年には、本学の3つのミッションのうちの1つとして、「教育と研究を社会に還元することを通じて、『持続可能な地球社会の構築』に貢献する」ことを掲げ、このミッションを果たすために、1.学部・研究科における持続可能性教育の重視、2.「環境」「持続可能性」を軸とした政策立案・提言、3.研究成果の教育・社会へ還元するための条件整備、という3つのビジョンを主要項目として取り組んできました。

また、東日本大震災復興支援本部では、その活動の一環として復興支援研究助成金を設立し、被災地の復興に寄与することを社会貢献の一つとして取り組んでいます。

復興支援については、本学の公式キャラクターである「えこびょん」（当初は本学の環境改善推進キャラクター）をラベルに使用した飲料水の売り上げの一部を被災地に寄付することとし、持続可能な社会の実現の試みとして、学生の発案を具体化してきました。これは自販機で販売しているので、オートマティックに構成員が持続可能な復興支援活動に参加することになります。

こうした取り組み以外にも、環境センターとしては、学生、教職員に対するさまざまな啓発運動に取り組んでいます。2014年度には、市ヶ谷キャンパス、多摩キャンパスにおいて「環境展」を開催しました。市ヶ谷キャンパスでは、昨年度に引き続きエコクイズの実施、「えこびょん」の登場などの企画を導入したことで、更に昨年度以上の盛り上がりを見せ、150名を超える参加がありました。また、エコツアーは、「都心の水辺でエコツアー」「多摩キャンパス汚水処理場エコツアー」「多摩キャンパス敷地境界線探索エコツアー」の3つの企画として実施し、40名が参加しました。

その他、環境関連講義の公開授業4講座、講演会、ゴミ分別活動2回など多岐にわたる活動を実施してきました。

また、ISOの小金井地区へのサイト拡大については、2013年度の方針「ISO14001の認証にとらわれずに、理系キャンパスとしての特性に応じた独自の環境目標を掲げ、理系の環境推進モデルとなるキャンパスを目指すこと」に基づいて、新しい取り組みを始めることになりました。2014年度では、小金井3学部での議論を開始し、2015年度には、新しく任命された副学長とともに各学部から選出された委員による取り組みが開始されます。同時に、この委員会は、市ヶ谷と多摩の環境委員会との連携も行い、全学的な取り組みと協力をつつ法政大学全体のEMS活動を担っていくこととなります。

2014年度の環境保全活動と今後の環境マネジメントシステムについて

環境保全統括本部長

波田野 静男

2014年度は、6月にISO14001更新審査を受審し、審査規格に適合していることが認められました。本学にとって5回目の更新となり、2017年9月までの認証継続が認められました。

市ヶ谷及び多摩キャンパスの教職員を対象に毎年実施している「ISO運用管理アンケート」結果を見ると、省エネルギーの推進、省資源の推進、廃棄物削減に教職員が継続的に取り組んでいることが判ります。1999年の環境憲章制定と総合大学としてはわが国初となるISO14001の認証取得から16年、アンケート結果は、本学の環境保全活動が定着し、成果を挙げていることを示しています。

その一方で、東京都環境確保条例による「温室効果ガス排出総量削減義務」の履行が大きな課題となっています。本条例は、ISO14001ではサイト外となっている小金井キャンパスも対象としています。第2計画期間（2015～2019年度）の削減義務率は17%であり、第1計画期間（2010～2014年度）と合わせると実に25%の削減が求められています。温室効果ガス排出量の削減は環境保全活動（省エネルギー）の環境目的・目標でもあり、本学の環境マネジメントシステムの実力が試されているとも言えます。第1計画期間の2倍を超える削減義務は非常に高い目標であり、全学、とりわけ大学3キャンパスの取り組みが重要となっています。

2014年度の市ヶ谷環境委員会、多摩環境委員会及び環境保全委員会においては、ISO14001のサイトを全学に拡大する従来の方針を変更し、本学独自の環境マネジメントシステムの検討も選択肢とする方向性を確認しました。今後は地球環境委員会および理事会の議を経て、各委員会において本学独自の環境マネジメントシステムの構築と移行について検討を開始する予定です。小金井キャンパスも小金井3学部による会議体を設置し、地球環境に配慮した環境負荷低減活動について検討を始める予定です。

本学はビジョンに「持続可能な地球社会の実現に貢献」することを掲げ、スーパーグローバル大学創生事業でも「サステイナブル社会を構想するグローバル大学の創成」を謳っています。「サステイナブル社会の構想・実現」は本学の重要なキーワードとなっています。独自の環境マネジメントシステムは、こうした本学のビジョンの実現に資するとともに、本学の教育研究活動の実態に即した実効性のあるシステムとなることが求められるでしょう。

2015年度は本学独自の環境マネジメントシステムを目指す取り組みを開始していきます。

小委員会活動報告

省資源・リサイクル活動の推進について

資源・リサイクル小委員会座長 学生センター市ヶ谷学生生活課長
喜嶋 康太

本小委員会は省資源の推進、廃棄物の抑制と再資源化の推進を目的としています。

具体的には1) ゴミ分別体験の実施、2) ミックスペーパーの分別強化、3) ペーパーレス化、に取り組んできました。

廃棄物の排出量が増加する要因の一つとして、可燃ゴミの中に再資源化可能な紙ゴミ「ミックスペーパー」が混在していることが挙げられます。

市ヶ谷および多摩キャンパスでは、今年度も学生・職員が参加してのゴミ分別体験を実施しました。今回は多摩キャンパスにおいて9月24日に実施した「ゴミ分別研修」についてご紹介します。

大学祭実行委員、環境サークルに所属する学生、入職2年目の職員、関係者など16名が参加しました。当日の午前中に、経済学部エリアおよび社会学部エリアで回収された可燃ゴミ32袋を分別したところ、可燃ゴミ18袋、不燃ゴミ6袋、ペットボトル7袋、カン2袋、ミックスペーパー5袋となりました（ビンのみ20リットル、それ以外は70リットルゴミ袋換算）。

ミックスペーパーは、リサイクル可能な良質な紙を指し、溶解処理を施すことによって再生可能な資源となります。ミックスペーパーの分別強化により、これまで燃やせるゴミとして処分されていたゴミが削減され、資源の有効活用につながります。私たちが、ふだん「紙ゴミ」と考えているものの多くが、実はミックスペーパーなのです。

例えば、新聞紙・雑誌・段ボールなどの資源ゴミや、ひどく汚れた紙、においの強いもの以外の紙はミックスペーパーに該当します。具体的には以下のようなものが当てはまります。レシート、写真、チラシ、ふせん、ホチキス止めされた資料、カタログ、はがき、紙コップ、包装紙、たばこの箱、手帳、カレンダー（金属部分を除く）、チケットの半券、窓付き封筒など。また、重要事項が記された用紙も、シュレッダーで細断すればミックスペーパーとして処理することが可能です。引き続き、省資源リサイクルの推進に取り組んでいきたいと考えております。

ゴミの分別や用紙使用量の削減に関わる工夫やアイデアをお持ちの方は、ぜひ環境センターやエコマネージャーに情報をお寄せいただければ幸いです。

今後とも、構成員の皆様には「3R」（Recycleリサイクル＝再生利用、Reuseリユース＝再使用、Reduceリデュース＝発生抑制）へのさらなるご理解、ご協力を宜しくお願いいたします。



ゴミ分別推進ポスター

省エネルギー活動の推進について

エネルギー・温暖化対策小委員会座長・施設部環境施設課長
相良 竜夫

本委員会は、省エネルギーを積極的に推進することで環境目的目標の実効性を高めることを目的として設立され、「法政大学環境方針」を具体化し学内の環境改善活動を継続的に実施するために、環境目的目標を毎年度策定し精力的に普及・啓発活動を行っています。ISO14001を導入して、市ヶ谷キャンパスでは16年目、多摩キャンパスでは11年目を迎えました。2013年度からは、東京都環境確保条例に基づき、グリーンキャンパス創造計画書の環境目標を大幅に改定し、省エネ法より厳しい数値目標を設定しています。内容としては、「温室効果ガス排出総量削減義務」の基準に準じて、市ヶ谷・多摩キャンパスの特定温室効果ガス基準排出量の8.0%削減というものです。2015年度からは、削減目標が17%になりますので、それに合わせて目標値も変更する予定です。

省エネルギー活動の取り組みとしては、構成員のご理解・ご協力により以下のような様々な取り組みを上記目標値の達成を目指し実施して参りました。この取り組みは、年に4回開催されるエネルギー・温暖化小委員会を通じて毎月の削減状況を構成員に周知し現状を把握してもらい、削減活動のポイント等を話し合って実行に移しています。

2015年度に向けては、東京都環境確保条例への対応をISO14001の活動にリンクさせての削減目標とさせていただきますので、皆様の更なるご協力をいただくこととなりますのでよろしくお願いします。

【具体的な活動について】

省エネ強化月間を設け6月から10月に「COOL BIZ」、11月から3月に「WARM BIZ」として、冷暖房装置の適切な温度設定を省エネポスター、省エネニュースを通じて、構成員に理解・協力を要請いたしました。また、「省エネのご協力をお願い」として学内メールにて頻繁に啓蒙活動を展開しました。

併せて、設備管理面での取り組みとして、未使用教室空調・照明のオフ、冷房運転時間の短縮、外濠校舎のエスカレーター運転時間の短縮、休暇期間中のエレベーターの間引き運転、待機電力のカット、夜間イルミネーションの時間短縮、加湿器を導入した冬季の快適な室温管理、節電型自販機の導入の推進等、様々な活動を実施してきました。10月の環境展では、ESCO事業の紹介パネル、東京電力による省エネについての紹介パネル等を展示しました。

本学では、現在8つのESCO事業を導入し、省エネルギーに関する包括的なサービスの提供を受けており、大学の利益と地球環境の保全に貢献する一挙両得の体制を整えています。8事業全体でのCO₂排出量削減量は、1679t-CO₂/年となっており、CO₂排出量削減率は11.3%にもなっております。これは、東京ドーム約20個分の面積に植林することにより吸収されるCO₂量に相当しています。

本小委員会を通じて、構成員の環境問題への普及活動により環境への配慮、省エネルギーの意識を皆さんに伝達し、行動に結びつくようになることを期待しています。近年、教室および研究室等でのIT関連機器や空調機器の普及により学内でのエネルギー使用量は増加する状況です。エレベーターの利用を控える、昼休みはPCの電源をオフにする等、当たり前といえる日常生活の積み重ね、地道な努力が省エネルギーに反映されてゆくということが大切なことだからです。今後も引き続き、構成員一人一人のご理解・ご協力をお願いするとともに、更なる省エネルギー推進に取り組んでいきたいと考えています。



ISO14001（環境マネジメントシステム）とは

法政大学はISO14001認証を取得しています

今日われわれの社会は、地球温暖化・オゾン層の破壊・酸性雨・熱帯雨林の減少・野生生物種の減少など、全地球的な課題に直面しています。また、世界的に温暖化をめぐる論議が盛んになる中で、教育研究機関としての大学も「持続可能な社会」を構築するため重要な役割を担うべきであると考えます。

本学はいち早く大学キャンパスにおける環境改善をめざす活動を開始、1999年大学院棟においてISO14001の認証を取得しました。その後2001年には市ヶ谷キャンパス全体に、2004年には多摩キャンパスへ認証範囲（サイト）を拡大してきました。この認証は3年ごとの更新となっており、2014年6月に5回目の更新審査を受け、認証継続が認められました。



登録証と附属書

登録概要

1 登録者名及び代表所在地	学校法人法政大学 市ヶ谷キャンパス・多摩キャンパス 東京都千代田区富士見二丁目17番1号
2 審査登録日	1999年9月29日
3 更新日	2014年9月29日
4 発行日	2012年11月5日
5 有効期限	2017年9月28日
6 審査機関	シー・アイ・ジャパン株式会社
7 環境マネジメントシステム規格番号	JISQ14001:2004 (ISO14001:2004)
8 登録範囲	教育研究および事業活動 (エクステンション・カレッジ講座、公開講座・セミナー、国家試験受験講座等)

えこぴよんの紹介

「えこぴよん」は2008年度の学内公募で誕生した学生のデザインによるオリジナルキャラクターで、環境問題を解決するため、世界を舞台にさまざまな活動をしているウサギです。

地球（型の気球）を背負っているのは、自分の背中に地球の未来がかかっていると思いついているから。（これまで「環境改善活動推進キャラクター」として活躍してきましたが、2013年11月、大学公式キャラクターになりました。）



ISO14001（環境マネジメントシステム）とは

ISO(アイ・エス・オー)とは、International Organization for Standardization(国際標準化機構)の略称です。ギリシャ語の平等・標準を司る神ISOS(アイソス)からもじって、頭文字IOSをISOと呼称しています。ISOは純然たる民間機関で、本部はスイスにあり、国際連合および関連の国連機関、国連専門機関での諮問機関の地位を有しています。会員資格は各国の代表的な標準化機関の一機関に限定されており、日本からはJISの調査・審議を担当する日本工業標準調査会が参加しています。

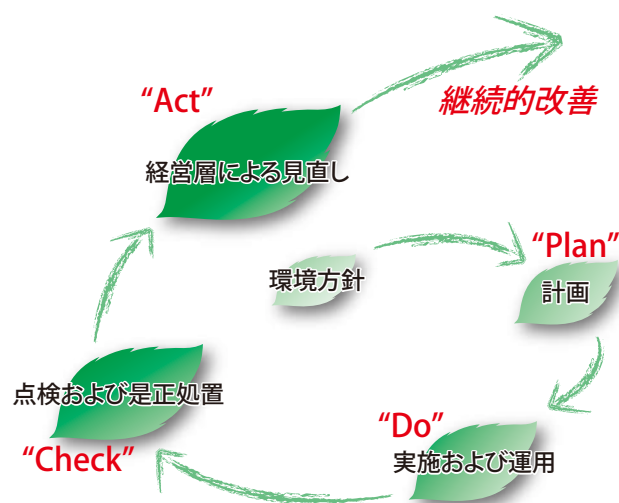
ISOは知的・技術的・経済的活動分野での国際間の協力を推進するために作られた世界標準で、ISO14001は「環境マネジメントシステム(EMS=Environmental Management System)」の国際規格として1996年に発効し、2004年に改正されました。日本では企業や自治体、教育機関での審査登録がなされています。

このシステムは、自らの組織の活動が環境へ与える負荷を低減することを目指して、「環境方針」を策定し、自主的な計画立案と点検改善を継続してゆくところに特徴があります。すなわち、右図のように「環境方針」実現のため、計画(Plan)し、それを実施(Do)し、結果を点検・是正(Check)して、不都合があればこれを見直し(Act)、再度計画を立てるというシステム(PDCAサイクル)であり、これを継続的に運用することで環境改善の実をあげることをめざしています。

ISO14001はこのEMSを構築する手順について点検することで改善すべき事項を特定し、その実現プロセスにおいては内部監査を自主的に行い、また第三者機関の審査を受けることにより、厳しく自らを律していくことが求められます。

そのためあらゆる手順と行動実績に関する文書化を図り、責任の所在を明確化し、誰が担当者でも同じようにシステムが運用される仕組みとなっています。

以下に、ISO14001規格に沿って本学の取り組みを紹介します。



環境コミュニケーション記録 (2014年度)

	区分	件数	主な内訳
市 ヶ 谷	行政機関	13	環境省(地球温暖化防止国民運動等)、文部科学省、新宿区、千代田区 など
	大学・大学院(学生以外)	2	東京理科大学、京都大学
	小・中・高校	0	
	学生	2	東京都市大学、同志社大学
	企業・団体等	46	旭硝子財団、日本テクノ、産業環境管理協会、サティスファクトリーインターナショナル など
	合計	63	

	区分	件数	主な内訳
多 摩	行政機関	2	町田市環境資源部、町田市保健所
	大学・大学院(学生以外)	0	
	小・中・高校	0	
	学生	0	
	企業・団体等	11	省エネルギーセンター、日本テクノ(4)、アサヒブリテック、出光リテール販売、低炭素杯実行委員会、京王電鉄、オムロンフィールドエンジニアリング、ポストインターネットワーク
	合計	13	

※ダイレクトメールやメールマガジン等の情報発信のみの数は含みません。

環境方針

Plan

環境方針は、組織が自らの行動原則を定めた声明文です。本学では、「学校法人法政大学環境憲章」及びISO14001規格（2004）に則って「環境方針」を定め、地球環境問題に積極的に取り組む姿勢を、最高経営責任者である総長名で制定することとしました。2014年度の「法政大学環境方針」は右記のとおりです。

環境側面

Plan

環境側面は、環境に対して影響を及ぼす原因となる要素を意味します。十分な調査に基づきこれを分析することは問題点の発見につながり、問題解決にむけての第一歩となります。本学では、キャンパス内での活動やサービスのなかで環境に対して悪い影響を及ぼす要素を「有害な（マイナスの）環境側面」、良い影響を与える要素を「有益な（プラスの）環境側面」というように分類しています。有害な（マイナスの）環境側面の具体例としては、エネルギーの使用、紙資源の消費、廃棄物の排出、有害物質の取り扱いなどがあります。有益な（プラスの）環境側面の例としては、環境教育・研究、講演会や講座などによる普及啓発、地域社会との連携、環境情報の発信などの事項があげられます。

法政大学における主要な環境側面については、「環境マネジメントシステム文書ファイル」に一覧を掲載しています。これらは環境への影響が生じる可能性と結果の重大性などの観点から客観的に評価付けを行っています。

法政大学環境方針

ーグリーン・ユニバーシティをめざしてー

法政大学は、持続可能な発展には地球環境問題への取り組みが重要であると認識し、法政大学環境憲章の下、全学を挙げ、グリーン・ユニバーシティを目指し、以下の取り組みを推進する。

- 1 教育研究活動や公開シンポジウムなどを通じ、大学内外の健全な環境の維持・向上に努めるとともに、環境改善のための啓発活動を積極的に展開する。
- 2 キャンパス内での活動として、省資源・省エネルギー、グリーン購入、廃棄物の抑制と再資源化の促進、緑化などに積極的に取り組む。また、地域社会の環境保全活動に参画する。
- 3 キャンパス内での活動にともなう環境負荷を低減するとともに、地球環境問題に関する議論や啓発などの活動を推進するため、目的・目標を策定する。各キャンパスで活動する教職員は一致してその達成に努める。
- 4 活動に関わる環境関連の法規制などを順守するとともに、環境汚染の予防と自然環境の保全・再生に努める。
- 5 キャンパスの教職員、学生、関連会社の社員に対し、環境教育を通じて環境意識の高揚を図る。
- 6 定期的に環境監査を実施し環境マネジメントシステムを見直すと同時に、その継続的改善に努める。
- 7 環境憲章や環境方針を始めとする環境関連情報を、文書や大学ホームページ（<http://www.hosei.ac.jp/>）などを通じて、学内の教職員・学生や一般社会へ積極的に公開し、大学の内外でのコミュニケーションを推進する。

2014年4月1日

法政大学総長 田中優子

環境目的・目標及び実施計画

Plan

EMSは、環境改善活動をいわゆる目標管理の原則に従って実行するしくみといえます。

第一段階として、環境方針を具現化するため中期的な「環境目的」を定め、今後3年間かけて何にどう取り組むかを設定します。第二段階として、それを実現するため「環境目標」という1年間の行動計画を設定します。つまり単年度および3年間の目標（目的）の両面から管理してゆくことで実効性を高めてゆく手法をとっています。

環境目的・目標を達成するために実施計画を策定しなければなりません。これは、組織の部門別・階層別に設定されていることや、手段や日程が決められていることが求められています。

法政大学では、毎年度の実施計画の総称を「グリーン・キャンパス創造計画」と名づけております。参考までにその内容を次ページに掲げます。



お花で描いたえこびょうん
(ボアソナードタワー4階屋上庭園)

2014年度グリーン・キャンパス創造計画書（環境教育・研究，環境保全）

達成状況 … ○達成 ○ほぼ達成 △未達成

1. 環境改善のための啓発活動の推進に関する事項（環境方針1）

（責任者：市ケ谷・多摩地区環境管理責任者）

	2014年度環境目標	環境マネジメントプログラム	実施部局	達成状況
市ケ谷	教職員・市民を対象として地球環境問題に関する公開セミナー・シンポジウムを企画・実施する	環境教育及びサステナビリティ教育に関する講演会・シンポジウムの開催（1回以上）	市ケ谷環境委員会が統括 サステナビリティ教育研究小委員会、 学部事務課、大学院事務部、環境セン ター、環境関連プロジェクト実施部局 が取り組む	◎
	地球環境問題に関連した展示・ その他の活動を企画・実施する	学内での環境展を開催（1回）	市ケ谷環境委員会が統括 環境センター、環境保全委員会が取り 組む	◎
		市ケ谷キャンパス内の緑化スペースを利用した 学生活動の支援	環境センターが取り組む 市ケ谷環境委員会が協力	○
	教職員・学生向けの体験型プロ グラムを企画・実施する	エコツアーの開催（1回以上）	市ケ谷環境委員会が統括 環境センターが取り組む	◎

	2014年度環境目標	環境マネジメントプログラム	実施部局	達成状況
多摩	教職員・市民を対象として環境問題に関する公開セミナー・シンポジウム等を開催する	環境問題をテーマとした公開授業を開催	多摩環境委員会が統括 多摩事務部、大学院事務部、環境セン ターが取り組む	◎
	環境問題に関連した展示・その 他の活動を企画・実施する	学内での環境展・環境問題に関わる合同ゼミを 開催	多摩環境委員会が統括 多摩事務部、環境センター、環境関連 部局が取り組む	◎
	教職員・学生向けの体験型プロ グラムを開催する	エコツアー等を開催	多摩環境委員会が統括 多摩事務部、環境センターが取り組む	◎

2. 地域社会の環境保全活動への参画の推進に関する事項（環境方針2）

（責任者：市ケ谷・多摩地区環境管理責任者）

	2014年度環境目標	環境マネジメントプログラム	実施部局	達成状況
市ケ谷	学内を中心とした交流プログラ ムを開催する	学内の他キャンパス・付属校との交流会を企 画・実施する（1回以上）	市ケ谷環境委員会が統括 環境センター、環境関連プロジェクト 実施部局が取り組む	△
	学外の諸機関との交流プログラ ムを開催する	他大学・諸機関との環境交流会を企画・実施 （1回以上）	市ケ谷環境委員会、環境センター、環 境関連プロジェクト実施部局が取り組 む	○
		学生と連携した地域貢献活動の企画・実施	環境センター、環境関連プロジェクト 実施部局が取り組む 市ケ谷環境委員会が協力	△

	2014年度環境目標	環境マネジメントプログラム	実施部局	達成状況
多摩	学内外の諸機関との交流プログラ ムに参加、あるいは自ら実施 する	他キャンパス・付属校との交流や他大学・諸機 関との環境交流を実施あるいは参加 学生の環境自主活動への協力 私立大学環境保全協議会研修研究会への参加	多摩環境委員会が統括 多摩事務部、環境センター、環境関連 部局が取り組む	◎
	多摩キャンパスの自然環境の環 境保全の方向性を検討する	多摩キャンパスの森林実態調査結果を元に環境 保全の方向性を検討する	多摩環境委員会が統括 多摩事務部、環境センター、環境関連 部局が取り組む	○

3. 環境関連情報発信の推進に関する事項（環境方針7）

（責任者：環境センター室長）

	2014年度環境目標	環境マネジメントプログラム	実施部局	達成状況
多摩共通 市ケ谷・	環境報告書、HP等による環境情報の発信を適宜行う	「法政大学環境報告書2013」の発行	(市ケ谷・多摩地区) 環境管理責任者、環境センターが取り組む	◎
		環境センターHPへの環境情報掲載、「雑誌法政」、「法政大学報」への記事掲載	環境センターが取り組む	◎

4. 省資源の推進に関する事項（環境方針2）

（責任者：環境保全統括本部長）

	2014年度環境目標	環境マネジメントプログラム	実施部局	達成状況
多摩共通 市ケ谷・	目標値は推定使用量の1%減とする	コピー、リソ、OA用紙の使用量管理を行う 使用量抑制のための啓発活動を行う、特に教員への啓発を行う	事業室が統括 市ケ谷・多摩キャンパスの事務組織が取り組む	◎

5. 廃棄物の抑制と再資源化の推進に関する事項（環境方針2）

（責任者：環境保全統括本部長）

	2014年度環境目標	環境マネジメントプログラム	実施部局	達成状況
多摩共通 市ケ谷・	市ケ谷・多摩キャンパスから排出される一般廃棄物排出量（学生一人あたりの排出量）について、基準値（2012年度）を維持する	分別の徹底（学生・教職員・業者等） 有価物の再資源化の促進 機密性の高い文書の処理の取りまとめ 学生の課外行事での廃棄物削減の徹底化	事業室が統括 市ケ谷・多摩キャンパスの事務組織が取り組む	市ケ谷 △ 多摩 ○

6. 省エネルギーに関する事項（環境方針2）

（責任者：環境保全統括本部長）

	2014年度環境目標	環境マネジメントプログラム	実施部局	達成状況
多摩共通 市ケ谷・	東京都環境確保条例による「温室効果ガス排出総量削減義務」の基準に準じて、市ケ谷・多摩キャンパスの特定温室効果ガス（燃料・電気の使用に伴い排出されるCO ₂ ）基準排出量の8.0%削減	[市ケ谷・多摩キャンパス共通] 照明装置の使用管理（屋内外とも） 冷暖房装置の運転管理（暖房使用時室温20℃、冷房使用時室温28℃が基準） その他の電気器具の使用管理（コピー機、PC、湯沸かし器など） エレベーターの利用管理（上がり1階、下り2階以上の階段利用を心がける） ESCO事業の運営 「Fun to Share」活動の推進 省エネ強化月間（クールビズ、ウォームビズ）を設定する 省エネを考慮した服装を心がける [市ケ谷キャンパス] 屋上緑化事業 ロゴライトアップ時間（日没後～22時）の維持 現況使用電力等の「見える化」を行う 夏季等休暇期間中のエレベーターの一部停止 [多摩キャンパス] 警備員が巡回する19時に未使用教室を消灯する イルミネーション点灯時間（12月1日～1月末）の維持 休暇中など学生が登校しない期間は自販機の稼働台数を減らすことを関係業者に要請する	施設部が統括 市ケ谷・多摩キャンパスの事務組織が取り組む	◎

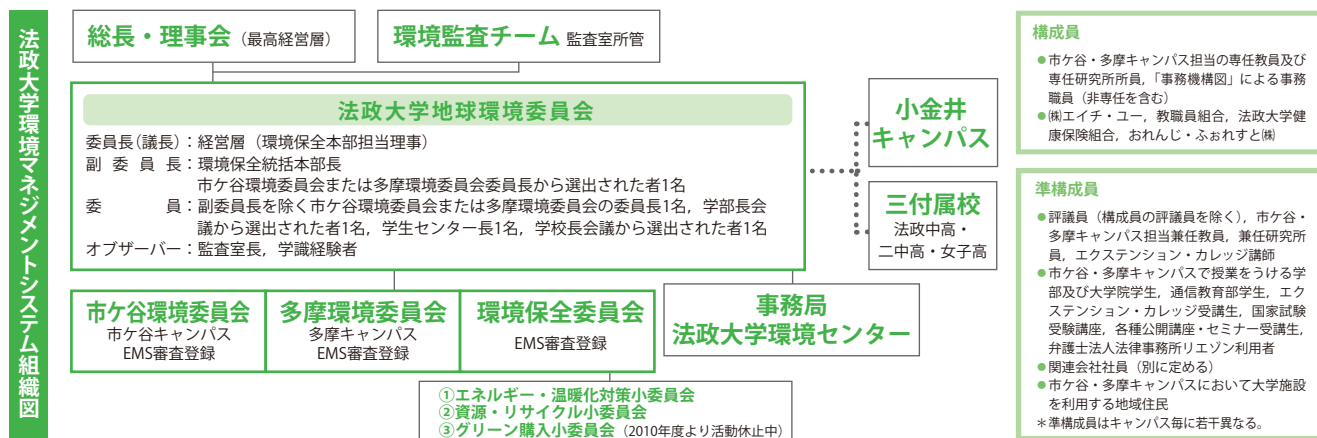


Do

推進体制

- 本学のEMSを運営するための体制は以下のとおりです。
- (1)最高経営層（総長）を補佐する経営層（担当理事）を置いています。
 - (2)総長は環境管理責任者を任命し、EMSの確立・実施・維持のための役割・権限・責任を付与します。
 - (3)担当理事は地球環境委員会を召集し、環境方針や運営組織など全学的な問題を審議します。
 - (4)市ケ谷及び多摩キャンパスではEMS運営のために、それぞれ「環境委員会」と全学の「環境保全委員会」を設けています。必要に応じて、各委員会のもとに小委員会を設置しています。
 - (5)（市ケ谷・多摩）「環境委員会」は、委員長は各地区の環境管理責任者、副委員長は委員のなかから互選することとなっています。この他に、各学部の専任教員より選出され

- たEMS委員、環境保全委員会委員長及び副委員長、総長の任命する教職員によって構成されています。（市ケ谷・多摩）「環境委員会」では、環境教育研究を推進するとともに、学内外を対象に環境意識を高める企画に関わっています。
- (6)「環境保全委員会」は、委員長は統括環境管理責任者、副委員長は施設部長または事業室長となっています。この他には、市ケ谷・多摩環境委員会委員長、関連部局の管理職によって構成されています。大学の事業活動に伴う環境負荷の低減と環境意識の啓発推進に取り組み、テーマ別の活動を推進しています。
 - (7)EMS全般の事務局は法政大学環境センターが統括しています。



Do

力量、教育訓練及び自覚

環境マネジメントシステムの実施にあたっては、全構成員が関する知識を一定レベル維持していることが求められます。研修の対象者は構成員全員であり、それぞれに環境マネジメントシステムにおける役割・権限・責任等に関する一定の認識を持ってもらうため、様々な研修を提供します。同様に、学生や関連会社など準構成員の人たちにも理解を深めて

もらうため情報発信を行っています。

法政大学では毎年以下の研修を実施しています。

- * ISO管理職研修
- * 部門別研修
- * 2年目職員研修(ゴミ分別)
- * 自衛消防訓練
- * 緊急事態訓練
- * EMS委員による各教授会での研修 など。

Do

内部監査

1. 概要

毎年、市ケ谷キャンパス、多摩キャンパスにおいて「(内部)環境監査」を実施しています。環境監査は、各キャンパスにおけるすべての教育・事務組織(部門)が対象となっており、4年間で全部門を監査します。

監査を行う人(環境監査員)は、本学の教職員のうち研修

機関が実施する環境監査員養成研修(2日間または5日間コース)を修了している人たち数名を選任し、総長が委嘱します。

監査の主管部局は監査室であり、監査の結果に関する情報は最高経営層である総長に報告されます。「不適合」事項(改善を要する事柄)があれば、直ちに是正処置をとらなけ

ればなりません。さらに毎年実施される第三者審査機関によるEMS審査においても、その結果を報告することになっています。

2. 2014年度内部監査概要（監査室長 牧野 大輔）

2014年度の大学の内部環境監査は、市ヶ谷キャンパスで2015年2月23日、24日、多摩キャンパスで2014年9月29日、30日の各2日間をかけて実施しました。監査は、両キャンパスの環境マネジメントシステムがISO14001規格の要求事項及び本学の手順書等に適合し、有効に維持・運用されているか否かの検証を基本としました。この検証は、監査においては常に実施するものです。今年度の監査の視点として、これに加えて「環境目的・環境目標」及び「グリーン・キャンパス創造計画」について各部門、管理単位への周知と理解及び取り組み状況を検証しました。「環境目的・目標」は「法政大学環境管理規程」第9条に基づくもので、3年ごとに策定され、2014年度は、3年間のうちの2年目にあたります。また、「グリーン・キャンパス創造計画」は、「環境目的・目標」の当該年度目標を達成するための実施計画です。

監査を実施した結果、「環境目的・目標」及び当該年度の「グリーン・キャンパス創造計画」を構成員に示達し、目標達成に向けての行動を促すとともに周知を図ることは、手順に沿って行われていることがわかりました。14年度の監査では、優れた取り組みである奨励事項として、構成員がPC上で契約電力の何%を使用しているかを確認できるようにしたり、契約電力の97%を超えた時点でメールで警告を発生し、現況使用電力の見える化に努めるといった、コンピューター利用による省エネへの工夫や、空き教室の電源・空調をこまめに停止する活動を職員の巡回によって行う、といったきめ細かい省エネ活動、また委託業者や学生を含めた構成員間の連携など12件が挙げられました。これは各部署単位において環境意識が高く、EMSが広く浸透している結果であると言えます。

次に監査員についてご紹介したいと思います。本学の内部監査は、専任職員の応援を得て実施しています。内部監査員になるには資格が必要で、「EMS内部監査員養成講座（2日間コース）等の専門研修を修了した者」となっています。内部環境監査においては、監査の実施日までに少なくとも2回の監査員打ち合わせを実施しています。そして、チェックリストを事前に作成し、監査当日にはスムーズに監査を遂行できるように準備を行っています。監査員は、「法政大学環境マネジメントシステム関連文書ファイル」を読み込んで理解し、チェックリストを作成するわけですが、相応な時間をかけることとなります。監査室としては、構成員・準構成員がこれらの活動に関わることが、環境マネジメントシステムの維持と改善に大きく寄与しているものと考えています。また、できるだけ多くの新しい方々の手を借りることがより一

層の環境マネジメントシステムの発展に繋がるものと考えています。

コンプライアンス

Check

大学の事業活動は様々な法律や条例により規制されています。当然のことながらEMSではこれらの法規制等をきちんと把握し順守していること（コンプライアンス）を確実にしていくことが求められています。また法規制等の登録情報を維持しておくことも必要です。

大学では、定期的に法規制等に関する情報を更新し、その法令等を順守しているかの確認（順守評価）を毎年行い、コンプライアンスを担保しています。

マネジメントレビュー

Act

1年間のEMS活動全般を通じての反省点や問題点を確認し、システムの改善にむけて「マネジメントレビュー」による見直しを行っています。経営層である担当理事がグリーン・キャンパス創造計画の実施状況、環境パフォーマンス評価結果、環境監査の結果などをもとにして環境方針の修正の必要性を含めて見直しを行ないます。

見直し自体は経営層が行うものですが、この評価を適切に実施できるように、経営層に対して必要な情報が確実にインプットされなければなりません。そのためには、日ごろから問題点や課題を整理しておくことが重要です。

2015年度に向けたマネジメントレビューでは、以下のようなレビューを行いました。

「えこびよん（p7参照）を有効利用したり、エコ・プロダクト（日本最大級の環境展示会）などに参加し、対外的な発信力を高め、環境先進大学をアピールする。」

2013-15年度 環境目的・目標策定表（環境教育研究 市ヶ谷，多摩）

環境目的・目標は、『法政大学環境管理規程』第9条に基づき実施するものです。

環境目的とは、『環境方針』（1・2・4・7）と整合する3年間の中期的な到達点を表し、環境目標は環境目的を達成するために設定される各年度の到達点を表しています。一般的に「環境3カ年計画」と呼ばれているものにあたります。また、環境に有益な効果をもたらす取り組みは、市ヶ谷・多摩の各キャンパスそれぞれにて策定し、環境負荷低減に関する取り組みは市ヶ谷・多摩の各キャンパス共通に適用されるように策定されています。環境目標の番号は、見出し番号ごとに枝番号をつけています。以下、教育研究の面での環境目的・目標を市ヶ谷キャンパス，多摩キャンパスの順に掲載します。

市ヶ谷

1 環境改善のための啓発活動の推進に関する事項（環境方針1・4） （責任者：市ヶ谷地区環境管理責任者）

環境目的	No.	環境目標13年度	環境目標14年度	環境目標15年度	実施部局
環境意識啓発の推進	1-1	教職員・市民を対象として地球環境問題に関する公開セミナー・シンポジウム等を各1回以上企画・実施する	教職員・市民を対象として地球環境問題に関する公開セミナー・シンポジウム等を各1回以上企画・実施する	教職員・市民を対象として地球環境問題に関する公開セミナー・シンポジウム等を年1回以上企画・実施する	市ヶ谷環境委員会が統括 学部事務課，大学院事務部，環境センター，環境関連プロジェクト実施部局が取り組む
体験学習の推進	1-2	教職員・学生向けの体験型プログラムを前・後期各1回以上企画・実施する	教職員・学生向けの体験型プログラムを前・後期各1回以上企画・実施する	教職員・学生向けの体験型プログラムを年1回以上企画・実施する	市ヶ谷環境委員会が統括 環境センター，環境関連プロジェクト実施部局が取り組む
環境管理・監査に関する教育の普及	1-3	EMS研修講座の開講情報を学内外に広報し受講を推奨する			環境センター，人事部 市ヶ谷環境委員会が協力

2 地域社会の環境保全活動への参画の推進に関する事項（環境方針2） （責任者：市ヶ谷地区環境管理責任者）

環境目的	No.	環境目標13年度	環境目標14年度	環境目標15年度	実施部局
学内外の諸機関等との交流の推進	2-1	他キャンパス・付属校との交流プログラムを1回以上企画・実施する	他キャンパス・付属校との交流プログラムを1回以上企画・実施する	他キャンパス・付属校との交流プログラムを1回以上企画・実施する	市ヶ谷環境委員会が統括 環境センター，環境関連プロジェクト実施部局が取り組む
	2-2	学外の諸機関との交流プログラムを年1回以上企画・実施する	学外の諸機関との交流プログラムを年1回以上企画・実施する	学外の諸機関との交流プログラムを年1回以上企画・実施する	市ヶ谷環境委員会，環境センター，環境関連プロジェクト実施部局が取り組む

3 環境関連情報発信の推進に関する事項（環境方針7） （責任者：環境センター室長）

環境目的	No.	環境目標13年度	環境目標14年度	環境目標15年度	実施部局
環境意識啓発の推進	3	環境報告書（年1回の発行）、HP等による環境情報の発信を毎月行う	環境報告書（年1回の発行）、HP等による環境情報の発信を毎月行う	環境報告書（年1回の発行）、HP等による環境情報の発信を毎月行う	市ヶ谷・多摩地区環境管理責任者，環境センター等が取り組む

多摩

1 環境改善のための啓発活動の推進に関する事項（環境方針1） （責任者：多摩地区環境管理責任者）

環境目的	No.	環境目標13年度	環境目標14年度	環境目標15年度	実施部局
環境意識啓発の推進	1-1	教職員・市民を対象として環境問題に関する公開セミナー・シンポジウム等を開催する	教職員・市民を対象として環境問題に関する公開セミナー・シンポジウム等を開催する	教職員・市民を対象として環境問題に関する公開セミナー・シンポジウム等を開催する	多摩環境委員会が統括 多摩キャンパスの教職員・学生が参加
	1-2	環境問題に関連した展示・その他の活動を企画・実施する	環境問題に関連した展示・その他の活動を企画・実施する	環境問題に関連した展示・その他の活動を企画・実施する	多摩環境委員会が統括 多摩キャンパスの教職員・学生が参加
体験学習の推進	1-3	教職員・学生向けの体験型プログラムを開催する	教職員・学生向けの体験型プログラムを開催する	教職員・学生向けの体験型プログラムを開催する	多摩環境委員会が統括 多摩キャンパスの教職員・学生が参加

2 地域社会の環境保全活動への参画の推進に関する事項（環境方針2） （責任者：多摩地区環境管理責任者）

環境目的	No.	環境目標13年度	環境目標14年度	環境目標15年度	実施部局
学内外の諸機関等との交流の推進	2-1	学内外の諸機関との交流プログラムに積極的に参加する	学内外の諸機関との交流プログラムに積極的に参加する	学内外の諸機関との交流プログラムに積極的に参加する	多摩環境委員会が統括 多摩キャンパスの教職員・学生が参加
多摩キャンパスの自然環境の保全	2-2	多摩キャンパスの自然環境の現状を把握する	多摩キャンパスの自然環境の現状を把握するとともに、環境保全の方向性を検討する	多摩キャンパスの自然環境の現状を把握するとともに、環境保全の方向性を検討する	多摩環境委員会が統括 環境センターおよびエイチ・ユーが取り組む



2013-15年度 環境目的・目標策定表(環境保全 市ヶ谷・多摩共通)

環境負荷低減に関する取り組みは市ヶ谷・多摩の各キャンパス共通に適用されるように策定されています。ここで規定する「市ヶ谷・多摩キャンパス」とは、事務機構図によるものとします。以下、環境保全の面での環境目的・目標策定表を掲載します。

1 省資源の推進に関する事項(環境方針2)

(責任者: 環境保全統括本部長)

環境目的	No.	環境目標13年度	環境目標14年度	環境目標15年度	実施部局
市ヶ谷・多摩キャンパスのコピー・リソ・OA用紙の紙資源消費量の削減を図るため、2012年度の実績を基準値とし、2013-15年度の3年間で推定使用量から3%削減する	1	目標値は推定使用量の1%減とする	目標値は推定使用量の2%減とする	目標値は推定使用量の3%減とする	事業室が統括 市ヶ谷・多摩キャンパスの事務組織が取り組む

2 省エネルギーに関する事項(環境方針2)

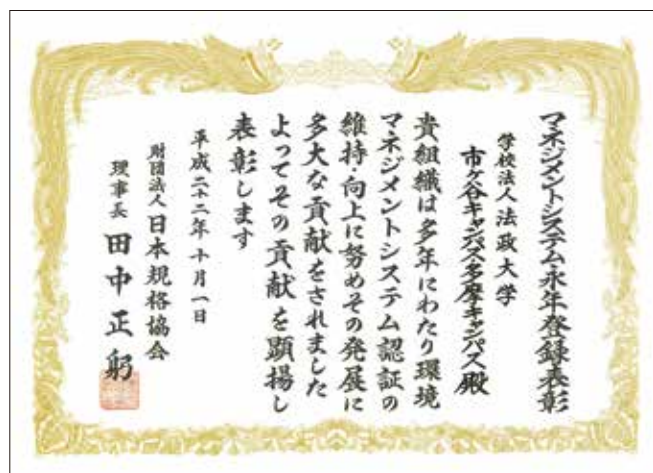
(責任者: 環境保全統括本部長)

環境目的	No.	環境目標13年度	環境目標14年度	環境目標15年度	実施部局
市ヶ谷・多摩キャンパスにおける「適用範囲1.所在地および建物の範囲」にて東京都環境確保条例による「温室効果ガス排出総量削減義務」の基準に準じ、特定温室効果ガス排出量を削減する	2	市ヶ谷・多摩キャンパスの特定温室効果ガス(燃料・電気の使用に伴い排出されるCO ₂)基準排出量の8.0%削減	市ヶ谷・多摩キャンパスの特定温室効果ガス(燃料・電気の使用に伴い排出されるCO ₂)基準排出量の8.0%削減	市ヶ谷・多摩キャンパスの特定温室効果ガス(燃料・電気の使用に伴い排出されるCO ₂)基準排出量の17%削減	施設部が統括 市ヶ谷・多摩キャンパスの事務組織が取り組む

3 廃棄物の抑制と再資源化の推進に関する事項(環境方針2)

(責任者: 環境保全統括本部長)

環境目的	No.	環境目標13年度	環境目標14年度	環境目標15年度	実施部局
市ヶ谷・多摩キャンパスから排出される一般廃棄物排出量(学生一人あたりの排出量)について、基準値(2012年度)を維持する	3	市ヶ谷・多摩キャンパスから排出される一般廃棄物排出量(学生一人あたりの排出量)について、基準値を維持する	市ヶ谷・多摩キャンパスから排出される一般廃棄物排出量(学生一人あたりの排出量)について、基準値を維持する	【市ヶ谷】 キャンパスから排出される一般廃棄物排出量(学生一人あたりの排出量)について、14年度実績値の1%減とする。 【多摩】 12年度の排出量を維持する。	事業室が統括 市ヶ谷・多摩キャンパスの事務組織が取り組む



環境マネジメントシステム認証登録10年以上の貢献に対し、平成22年10月1日、財団法人日本規格協会より永年登録表彰を受けました。

市ケ谷キャンパス

市ケ谷キャンパス2014年度の取り組み報告

環境センター市ケ谷環境事務課

■エコツアーを実施しました

2014年8月6日（水）に「都心の水辺でエコツアー」を実施しました。このツアーは千代田区から委託されたNPO法人が運行しています。

使用するボートも通常のボートと異なり化石燃料を使用せず、充電式電池を動力とした環境に配慮したボートを使用します。

参加者は水道橋にある防災船着場から乗船、神田川に入った後、隅田川に抜け、下流の日本橋川に入り出発地点に戻ってきました。

ガイドによる川の歴史・史跡をはじめ、川の浄化の取り組みなどの話を聞きながらの2時間の環境啓発学習でした。

普段は見ることが出来ない不燃ゴミを船に積み込む「ゴミ中継所」などをまじかに見ることが出来、川の重要性を再認識させられたツアーでした。

エコツアーは毎年度実施しています。今後も様々なエコツアーを検討していきたいと考えております。



エコボートをバックに



船内の様子

■第15回環境展を開催しました

2014年10月21日（火）～23日（木）の3日間、市ケ谷キャンパスの外濠校舎1階メディア・ラウンジにおいて「第15回環境展」を開催しました。

会場では大学内のゴミ分別をわかりやすく見本展示したコーナーや環境ゼミの活動報告、環境関連企業の取り組みなどが幅広く紹介されました。また、環境展共同企画として、図書館「リサイクルブック」コーナーや、生協書籍コーナー

では、環境に関する本を集めた「ブックフェア」を開催しました。期間中の昼休みには、「えこぴょん」が登場し、連日大盛況でした。

※環境展では2008年度より、会場で使用する電力の全てにグリーン電力を使用しています。（2014年度「太陽光発電」を使用）



環境展に登場したえこぴょん



環境展会場

■環境講演会を開催しました

2014年12月15日（月）市ケ谷キャンパスにおいて、「企業の社会貢献」をテーマとした環境講演会を開催しました。

人間環境学部田中勉教授の司会により、リコージャパン(株) CSR推進部の太田康子氏を講師に迎え、企業が社会貢献活動（CSR）に取り組む理由、海外を含めた社会貢献活動プログラムが目指すもの、東日本大震災時の被災地での活動についてお話いただきました。



講演会の様子

多摩キャンパス

多摩キャンパス2014年度の取り組み報告

環境センター多摩環境事務課

■「ゴミ分別研修」を実施

本学におけるゴミの分別基準の周知徹底および一般廃棄物排出量の削減を目的とした「ゴミ分別研修」を9月24日(水)に実施しました。

昨年度に続き、大学祭の実行委員を担当している学生、環境サークル所属学生および入職2年目の職員の他、今年度は新たにエコマネージャーにも参加を募り、24名の参加人数となりました。

清掃担当者の指導の後、前日に経済学部エリア・社会学部エリアにて収集された可燃ゴミの袋の中身を一つひとつ点検し、可燃ゴミ、不燃ゴミ、ミックスペーパー、カン・ビン、ペットボトル等に分別しました。

分別体験実施前には32袋あったゴミが、分別作業後には、可燃ゴミ18袋、不燃ゴミ6袋、ペットボトル7袋、カン2袋、ミックスペーパー5袋に分別されました。実際にゴミの分別をしていく中で、きちんと区別されず捨てられているゴミの多さに驚くとともに、一人ひとりがその都度徹底して分別していくことの必要性を改めて実感する体験となりました。

キャンパス内の一般廃棄物排出量削減には、大学の分別基準に従ってゴミを廃棄することが大切です。皆様のご理解とご協力をいただけますようよろしくお願いいたします。



分別作業前のレクチャー



分別作業の様子

■「たまにはエコツアー」を実施

今年度は、6年ぶりに学内エコツアーを実施しました。

●汚水処理場エコツアー

11月13日(木)の昼休みに多摩キャンパス汚水処理場を巡るエコツアーを実施しました。当日は学生と教職員合わせて19名が参加しました。

多摩キャンパスは1984年の開設以来、公共下水道を利用しておりません。

キャンパス内から排出される全ての汚水・雑排水は、16号館(エッグドーム)地下にある汚水処理場で適正に処理され、一部はトイレの洗浄水(中水)として再利用されています。このため、キャンパス内のトイレの洗浄水は若干黄色が

かっています。

多摩キャンパスを足元で支えながら、決して人目に触れることのない汚水処理場を実際に見学しながら、沈砂・沈殿設備から始まり、微生物による有機物の分解、消毒設備等を経て、最終的には境川に放流される多摩キャンパスの水の循環について、現場の設備担当者からレクチャーを受けました。

●敷地境界を探索エコツアー

11月18日(火)の午前中に多摩キャンパスの敷地境界を探索するエコツアーを実施しました。当日は学生と職員合わせて13名が参加しました。

多摩キャンパスの校地面積は約82万4千㎡(約25万坪)で、東京ディズニーランドの敷地面積に匹敵する広大なキャンパスです。多摩丘陵の西端に位置し、東京都町田市・八王子市、神奈川県相模原市の3市にまたがっています。

多摩キャンパスの長大な敷地境界線のうち、初心者に適したルートをあらかじめ選定した上で、設置されている隣地との境界杭の確認作業に同行しながら、現場の植栽担当者からレクチャーを受けました。



汚水処理場内



敷地境界を歩く

■ペットボトルキャップ回収ボックス設置

ペットボトルの飲み残しにより、ゴミ袋が汚れてしまうための対策として、2014年8月からペットボトルキャップ回収ボックスをキャンパス内各所に設置し、2014年度は約23,000個の回収が行われました(2月9日現在)。

回収されたキャップは、エコキャップ推進協会を通じてポリオワクチン26人分として寄付いたしました。



ペットボトルキャップ回収ボックス



エコキャップサポートシール



2014年度の市ヶ谷・多摩地区の環境教育・研究活動について

都市の生き物を探求するー自ら企画し実践するゼミ活動の試みー

人間環境学部教授

高田雅之

生き物や生態系と人との関わりをテーマにしているこのゼミでは、ゼミの課外活動（サブゼミ）として、2014年度から都市の生き物をテーマとした5つのプロジェクト活動を始めました。全員がいずれかに参加して行うこの活動の狙いは、チームで協力して具体的なテーマを企画立案し、調査活動を行い、企業や地域の人々との接点を持ち、目標とする成果に向かうことです。まだ1年目で手探りの中ですが、今年度実施した各プロジェクトの主な活動を紹介します。

都市の緑地プロジェクト

まず大学近郊の緑地を訪ね歩き、その環境や生育する植物についてじっくり観察することから始めました。そして同定できた植物から特徴を整理し、独自の図鑑づくりを進めました。さらにいくつかの企業緑地取材し、学生の視点からより望ましい緑地とするための提案を企業に対して行いました。

ホテルの水辺プロジェクト

ホテルのすみやすい環境を考えるため、まずはホテルについて調べ、各地で実際にホテルを観察し併せて明るさの計測や水質調査も試みました。また、外国との比較を含めホテルと人間との関係について研究を始めました。現在ホテルが息する都内の公園において、保護活動への参加に向けて地域

活動グループとの連携を模索しているところです。

生き物文化探しプロジェクト

市内には生き物に関わる歴史・風俗・文化などが、神社や地名を始め、店舗や街中にたくさん見られます。これらを分担してひとつひとつを丹念に訪ね歩き、写真記録やインタビュー、資料調査などを行い、多くの発見をしました。そして帳票に記録しデータベースとして取りまとめる作業を行いました。

自然研究プロジェクト

科学的なアプローチを目指すこのチームでは、夏から秋は外来植物が都市にどのようなにはびこっているかを調べるための手法を検討し調査を行いました。また冬には企業緑地の一角を借りて野鳥の餌台を設置し、カメラによる野鳥の自動撮影を行いました。そしてこれらのデータの分析を行いました。

野鳥との共生プロジェクト

外濠や北の丸公園を始め、大学近郊の公園を中心に野鳥観察を行い、データを収集し分析しました。1月には三井住友海上の環境コミュニケーションスペース「ECOM駿河台」でその成果をパネル展示する機会をいただきました。また同社と一緒に、学生の手による探鳥会を毎月開催しています。



餌台で寛ぐシジュウカラ



企業緑地を訪ねての調査



野鳥の餌台を設置



「ECOM駿河台」でのパネル展示

2014年度の環境教育・研究活動について

多摩地区環境管理責任者・多摩環境委員会委員長
社会学部教授

東郷 正美

本年度は、2013年年度開始の新「環境3カ年計画」の2年目に当たります。多摩環境委員会では、ここに定められた諸目標について、それぞれ行動計画を立てて以下のように取り組んで参りました。

【環境改善のための啓蒙活動の推進】

●教職員・市民を対象とする公開セミナー・シンポジュームの開催

昨年度と同じように多摩地区4学部（経済学部・社会学部・現代福祉学部・スポーツ健康学部）それぞれが実施する授業の中で、環境問題を取り扱うものの一部を一般公開するかたちでこの目標に応えることとしました。具体的には、10～12月に現代福祉学部の「地域経済論」、経済学部の「環境政策論B」、地球環境論B、社会学部の「地球と自然2」が環境公開授業の名のもとにそれぞれ2回公開されました。通常受講学生以外の参加者を多く集めるには至りませんでした。いずれの授業でも環境公開授業用に内容を整え直す工夫が加えられましたので、通常受講学生に対してもいつもと違った視点の環境学習の機会を供する場となったと考えています。

●環境問題に関連した展示その他の活動の実施、体験型プログラムの開催

恒例の「多摩環境展」を、本年度は多摩キャンパスダンスフェスティバル、多摩キャンパスコンサートの開催日（11月22・23日と12月6日）にその会場・2号館大ホールの入口ロビーにおいて開催しました。中心となる環境系ゼミや学生サークルのポスター発表の数は昨年を大きく上回り、また、今年も町田市立小中一貫教育実践校・ゆくのき学園の生徒さん達のたくさんの作品、企業による環境を配慮した製品や活動紹介がこれに加わりました。来場された大勢の学外者の皆さんの目に触れ、私たちの活動の一端をお知らせできたものと思っています。

体験型プログラムにつきましては、近年、学外エクスカージョン「たまにはエコツアー」の実施に重きを置いてきましたが、参加者数が思うように伸びず、また、参加者構成も偏りがちになってきましたので、本年度は方向を大きく転換し、対象を学内・多摩キャンパス内に求めて①ゴミ分別研修会を9月24日に、②学内エコツアー「汚水処理場見学会」を11月13日に、③学内エコツアー「多摩キャンパス敷地境界探索会」を11月18日に実施しましたところ、毎回10数名を上回り、多いときは24名と多くの参加を頂き、好評を得て終えることができました。

【地域社会の環境保全活動への参画】

●学内外諸機関との交流

恒例となりました「キャンパス内タケノコ掘り活動」は4月26日に学生、職員その他30名が集まって今年も行われました。9月4～5日には第28回私立大学環境保全協議会夏期研修研究会参加者派遣、11月23日多摩キャンパスダンスフェスティバル開催協力などと、多面的に取り組んできました。

●多摩キャンパスの自然環境の保全活動

多摩環境委員会が、先年自ら実態調査を行ってまとめた小冊子「法政大学多摩キャンパスの自然と生物」を今年も多摩4学部新入生全員に、また、機会あるたびに希望者に配布するなどして、多摩キャンパス構成員の間で多摩キャンパスの自然に関する理解が深まるよう働きかけました。しかし、課題となっている今後の保全活動計画については、未だ具体化するに至りませんでした。



環境公開授業
(地域経済論)



多摩環境展に見入る来場者



学内エコツアー
(汚水処理場見学会)



タケノコ掘り活動を終えて

2014年度ISO運用管理アンケート結果について

教員及び職員を対象に実施したISO運用管理アンケートの結果について報告いたします。

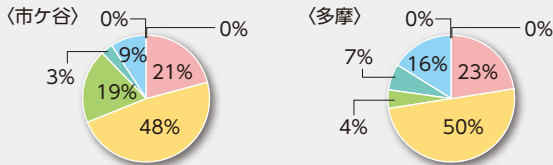
回答方法 教員：市ヶ谷及び多摩キャンパスのEMS委員により各教授会で回覧・集計
職員：市ヶ谷及び多摩キャンパスの所属長またはエコ・マネージャーにより各部局単位で回覧・集計

回答・集計期間：2014年12月～2015年3月

アンケートの項目について

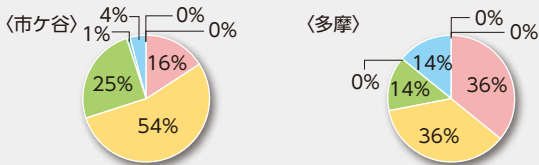
- 5. いつも使用（実行）している
- 4. だいたい使用（実行）している
- 3. あまり使用（実行）していない
- 2. 使用（実行）していない
- 1. 発注実績がない／その他
- 9. 無回答
- 99. 未提出

(2) 事務用品を購入する際に、大学の「グリーン購入ガイドブック」や環境省の「環境物品等の調達の推進に関する基本方針」等の利用をどの程度行っていますか。



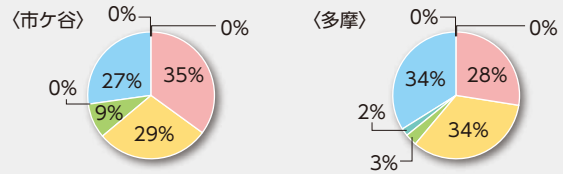
職員のみ

(2) 事務室の冷暖房温度の設定基準（冷房28℃、暖房20℃）をどの程度実行していますか。



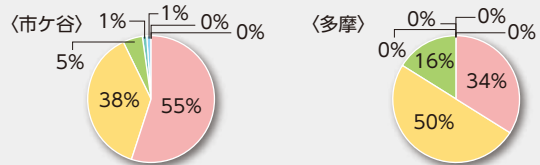
職員のみ

(1) 学外の印刷会社に発注される場合に、用紙の種類は指定された用紙（再生紙もしくはFSC認証紙）を使用していますか。



II. 省エネルギーの推進について

(1) 学内のエレベーターを利用する際、「上り1階、下り2階は階段で！」をどの程度実行していますか。



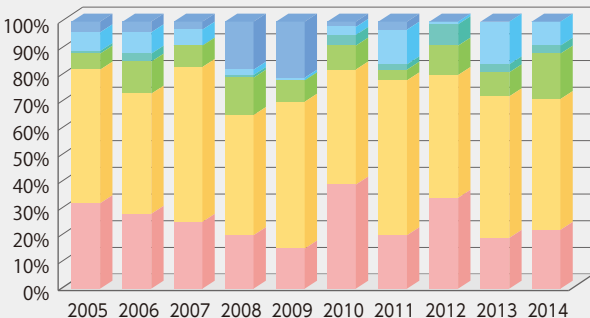
(3) 事務室における一時退室時の消灯をどの程度行っていますか。



ISO運用管理アンケート10年間の傾向（2005～2014）「抜粋」

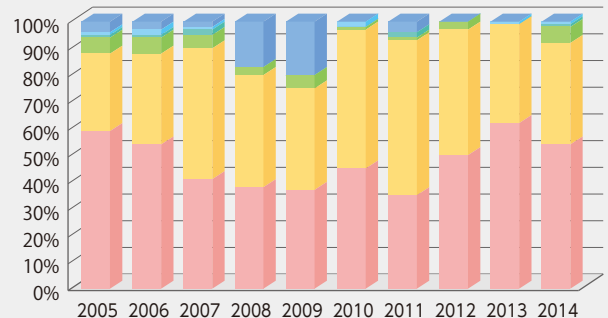
I. グリーン購入の推進について

(2) 事務用品を購入する際に、大学の「グリーン購入ガイドブック」や環境省の「環境物品等の調達の推進に関する基本方針」等の利用をどの程度行っていますか。



II. 省エネルギーの推進について

(1) 学内のエレベーターを利用する際、「上り1階、下り2階は階段で！」をどの程度実行していますか。



■ 5. いつも使用（実行）している ■ 4. だいたい使用（実行）している ■ 3. あまり使用（実行）していない ■ 2. 使用（実行）していない ■ 1. 発注実績がない／その他 ■ 9. 無回答／未提出

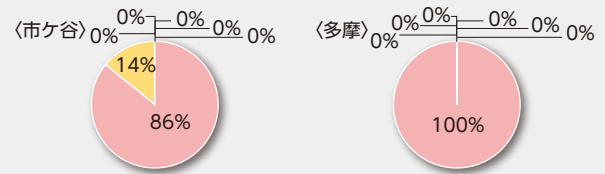
教員のみ

①教室の室温調整（スイッチのON/OFFや温度調整が可能な場合）をどの程度実行していますか。



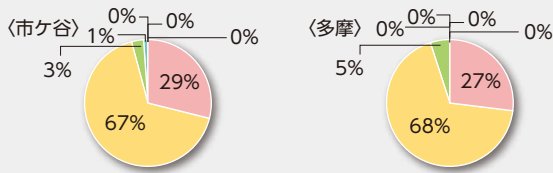
教員のみ

②教室退出時、「消灯が可能」な場合どの程度実行していますか。

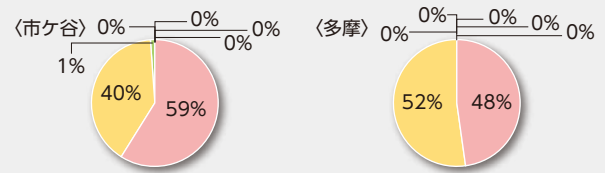


Ⅲ. 省資源の推進について

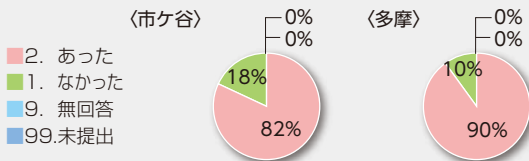
(1) コピー用紙やリソグラフ用紙の印刷の際、両面印刷をどの程度行っていますか。



(2) ミスプリント用紙をメモ用紙または裏面コピーなどでの有効活用（再使用）をどの程度行っていますか。



(3) 今年度の発行物の他媒体化（電子メール、管理情報システム、ホームページなどの活用）を推進した事例はありますか。（職員のみ）

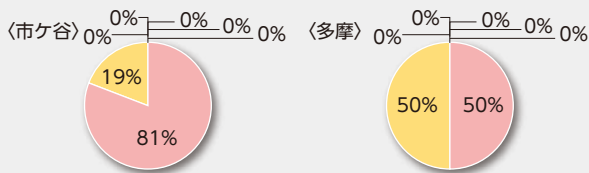


1. あった に回答された場合の事例

- 「環境マネジメントシステム関連文書ファイル」の管理情報システムへのUP
- 受講者名簿の紙配布廃止（各教員が情報ポータルよりセルフ出力）
- 学部長会議資料のiPad化
- 授業改善アンケートのWEB化
- 他部課への報告書をPDFファイルにて送信し、情報共有している。
- 刊行物の電子化（HP掲載）

Ⅳ. ゼロエミッション（廃棄物削減）について

(1) ゴミの分別をどの程度行っていますか。

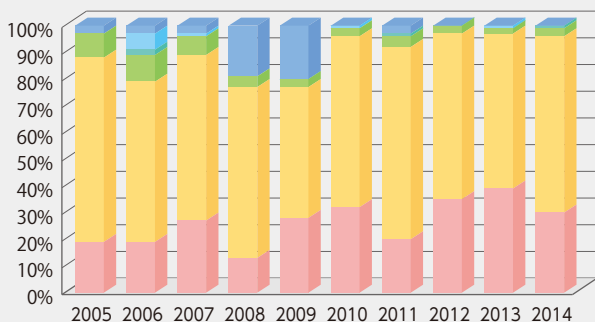


(2) 両面使用済みの用紙や新聞・雑誌などを回収する用紙回収ボックスをどの程度使用していますか。



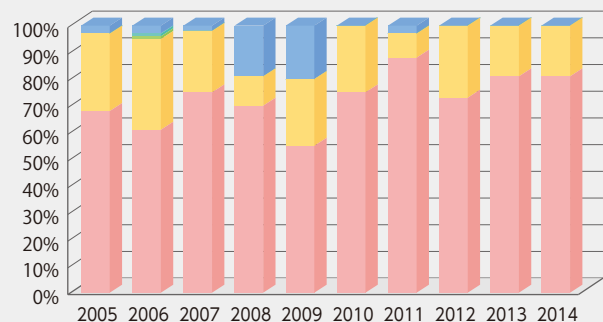
Ⅲ. 省資源の推進について

(1) コピー用紙やリソグラフ用紙の印刷の際、両面印刷をどの程度行っていますか。



Ⅳ. ゼロエミッション（廃棄物削減）について

(1) ゴミの分別をどの程度行っていますか。



今後もISO運用管理アンケートを定期的実施し結果を公表いたします。
 ※今回紙面の都合で掲載できなかった、ご意見・ご提案に関する回答は環境センターHPに掲載しています。

教育研究組織の整備状況及び環境負荷データ (2012年-2014年度) 市ヶ谷・多摩

■ 教育研究組織の整備状況

2012年度 大学院公共政策研究科公共政策学専攻設置

2013年度 大学院キャリアデザイン学研究科キャリアデザイン学専攻設置

■ 校地の整備状況

2013.3 (旧) 一口坂別館校舎解体工事着工

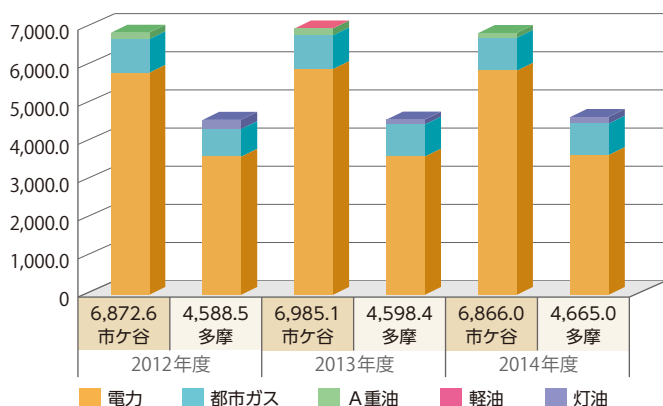
2013.7 一口坂校舎建設工事着工

2014.3 55・58年館建替工事着工

2014.5 一口坂校舎竣工

■ 環境負荷データと目標達成状況

1. エネルギー使用量と内訳 (t-CO₂) (注1)

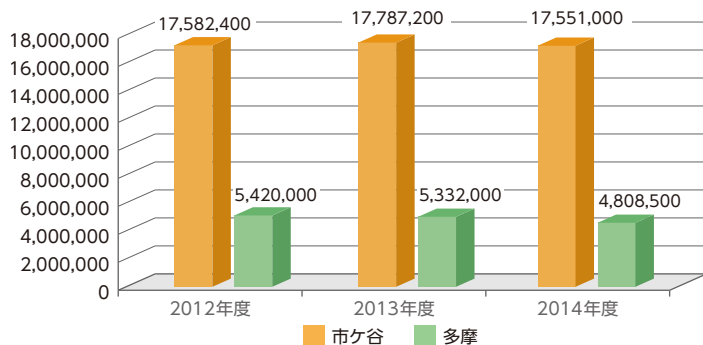


注1) 2013年度より東京都環境確保条例が適用されたことにより、2013年度から数量単位を従来の原油換算値 (KL) から二酸化炭素排出量 (t-CO₂) に変更しています。

目標達成状況

- 2014年度は、市ヶ谷・多摩とも目標を達成しました。
- エネルギー需要期 (夏・冬) に向けた活動 (省エネポスター配布・掲示、節電ガイドライン発表、環境展出展等) を積極的に実施し、周知を行いました。

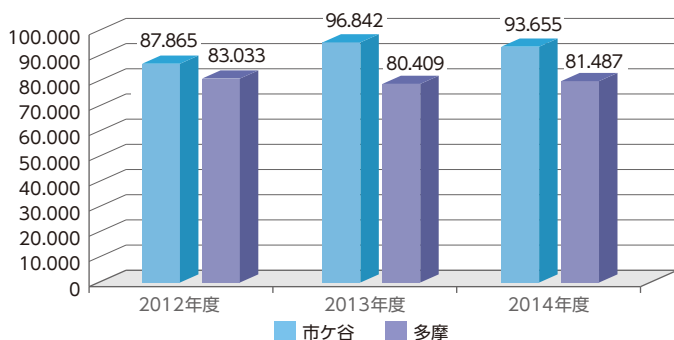
2. コピー・リソ・OA用紙使用量 (枚)



目標達成状況

- 2014年度については、市ヶ谷、多摩ともに目標を達成しました。
- 目標達成した部局が多い一方で、新規事業等を実施した部局で使用量の増加がみられました。
- 裏紙利用、両面・集約印刷の励行、紙資料の電子化が一層定着してきました。

3. 一般廃棄物排出量 (t)



目標達成状況

- 2014年度は、市ヶ谷は目標達成できませんでしたが、多摩は達成できました。
- 市ヶ谷において、大郷ビルからの廃棄物量が2013年度より加わったことが年間目標未達成の一因です。
- 市ヶ谷の外濠校舎において、お昼の時間帯にお弁当の容器回収専用のゴミ箱を設置し、他のゴミと混在しないよう分別・回収を実施しました。

*教育研究組織、校地の整備状況、環境負荷データの掲載範囲は、環境マネジメントシステムの構築が完了している市ヶ谷、多摩キャンパスのみを対象としています。また、データは、2015年5月1日現在のものです。

*2011年度以前のデータについては、過去に発行した環境報告書を参照して下さい。

第三者意見

ニッセイ基礎研究所 上席研究員 川村 雅彦氏

環境報告の記載事項について

この環境報告は、①環境改善活動、②環境教育・研究活動、③資料編から構成され、「グリーン・キャンパス」をめざす堅実かつ誠実な環境報告書であると感じます。別の表現をすると、EMS活動報告にややウエイトがあり、その計画や取り組みを教職員や学生などの読者に丁寧に説明しようという想いは伝わります。ただ、正直なところ、パターン化の印象があります。

また、Plan・Do・Check・Actに沿って法政大学のEMSが解説されていますが、年度別の実施計画「グリーン・キャンパス創造計画」が先にあって、中期的な到達点を示す「環境3カ年計画（環境目的・目的策定表）」が後に来るため、全体の方向性がわかりにくくなっています。その意味で、もう少し読んでもらう工夫が必要ではないでしょうか。例えば、最初に特集を載せることも考えられます。

資料編にはキャンパス別に過去3年分の環境負荷（エネルギー使用量、用紙使用量、廃棄物排出量）と目標達成状況が記載されています。全体としては概ね目標達成であり、着実な取り組みの成果と評価できます。ただ、負荷水準は横ばいゆえ、更なる削減に向けて、教職員・学生一人当たりの原単位を記載されてもよいのではないのでしょうか。

他方、地球環境委員会委員長の「法政大学EMS活動について」の中に、法政大学の3つのミッションの一つとして「教育と研究を社会に還元することを通じて、『持続可能な地球社会の構築』に貢献する」ことを掲げ、それを果たすための3つのビジョンを主要項目として取り組んできました、という記述があります。

これは先進的な素晴らしい理念と実践だと思しますので、EMS活動とともに、この3ビジョンの取り組み内容と成果についても記載されると、貴学らしいよりアグレッシブな報告書となることが期待されます。

大学の環境活動内容について

法政大学がめざすのは「グリーン・ユニバーシティ」であり、持続可能な社会を構築するために、教学（教育・研究）と法人

（EMS活動）の両面で改革を進め、環境対策に取り組むとされています。その概念図をみると、学生・地域コミュニティ・教員・職員が一体となって実践することになっています。

しかしながら、本報告書では学生の“顔”が見えにくいと感じます。例えば、EMS運営には学生（組織）の参加はないのでしょうか。また、学生を対象とする「環境報告書を読む会」を他大学と連携することも考えられます。環境意識の高い学生を輩出することが、大学の“環境プロダクト”の一つであると考えれば、学生参画を検討されてはいかがでしょうか。

教育・研究面では、全学的な環境教育は行われていますが、学部の人間環境学部や大学院の公共政策研究科のゼミ・講義内容を紹介してもよいのではないかと思います。世界的な動きのなかで、行政やNPO、企業がどのような意識をもち活動しているかが議論されているからです。

それから、今後の理系小金井キャンパスへのサイト拡大との関連で、EMS活動（の報告）は環境負荷低減に向けた“運用改善”を主体に記載されていますが、ESCO事業とともに“設備投資”についても開示された方が、取り組みの全貌が伝わると思います。これからの更なる取り組みに期待します。



川村 雅彦

(かわむら まさひこ)
ニッセイ基礎研究所
上席研究員

1976年九州大学大学院工学研究科修士課程修了、三井海洋開発を経て、1988年(株)ニッセイ基礎研究所入社。専門は環境経営、環境格付、CSR経営、環境ビジネス、統合報告。環境経営学会副会長。著書は「CSR経営 パーフェクトガイド」(単著)、「統合報告の新潮流」(共著)など。

編集後記

2014年度は、「ISO14001」の5回目の更新審査を受審し、新たに3年間の認証継続が認められた年度でした。

同時に認証取得から15年が経過しており、今後の環境マネジメントシステムの在り方について各委員会で議論を重ねた結果、「ISO14001」の認証にとらわれずに本学独自の環境マネジメントシステムを目指していくことを確認した年度でもありました。

報告書の作成や資料提供にご協力いただきました皆様には心より御礼申し上げます。本報告書をきっかけに本学の環境への取り組みに関心を持っていただけたら幸いです。

■ご意見・ご感想をお聞かせください

今後の参考とさせていただきますので、「環境報告2014」をお読みいただいてのご感想や、特に興味を持たれた項目、ISO14001を初めとする本学の環境への取り組みについてのご意見がございましたら、氏名、所属、ご連絡先のメールアドレス等を明記のうえ、下記までお送り下さい。なお、法政大学環境センターでは大学の個人情報保護規定等の学内関連規定を順守します。

送付先：cei@hosei.ac.jp
法政大学環境センター
「法政大学環境報告」担当宛

- 発行 法政大学環境センター
- 発行日 2015年6月1日
- 制作・印刷 大東印刷工業株式会社
TEL 03-3625-7481(代)

■屋上緑化維持管理メンバー募集！

屋上緑化に興味のある方、ゼミやサークル以外でも大学で環境活動してみたい方はぜひご参加ください。春・秋学期問わず、年度途中でも随時登録・参加可能です。

詳しくは環境センターのホームページや学内の環境掲示板をご覧ください。



法政大学 環境センター

〒102-8160 東京都千代田区富士見2-17-1
TEL. 03-3264-5681 FAX. 03-3264-5545 E-Mail. cei@hosei.ac.jp

URL <http://www.hosei.ac.jp>

次の項目をクリックしてご覧ください

▶教育・研究(左から3つ目のバナー) ▶学びの特色 ▶環境教育 ▶環境センター



法政大学はFun to Shareに
参加しています。

